

## 平成 28 年度第 1 回郷土文化館協議会 概要

1 日時 平成 28 年 10 月 13 日（木） 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

2 会場 小田原市郷土文化館 会議室

3 出席者

(1) 郷土文化館協議会委員

一寸木委員長、奥野副委員長、明石委員、渋谷委員、鳥居委員、中村委員、奥村委員、松本委員

(2) 市事務局側

栢沼教育長、関野文化部長、安藤文化部副部長、大木生涯学習課長、岡郷土文化館副課長、大貫主事、保坂主事、岩本主事

4 会議の概要

新任委員への委嘱状交付、教育長挨拶、各委員紹介、職員異動報告に続き、議事に入った。議事の進行は一寸木委員長が行った。

(1) 議題 1「平成 27 年度 郷土文化館事業報告」および議題 2「平成 28 年度 郷土文化館事業」について

このことについて、まず会議資料に従って事務局から概要を報告した。報告後、次のような討議が行われた。

① 平成 28 年度展示事業概要について

委員より、常設展示の展示室の解説について、見直しが必要であるという意見が出された。展示の担当者も見直しの必要性は感じていると思うし、少ない人数で普及事業を行っており、大変だということは承知の上であるが、単発の展示や継続的な普及事業とは別に、常設展示は館にとって大変重要であり、意識をもっと向けるべきであるという意見が出された。

このことについて、事務局より、常設展示の見直しについては以前より必要性を感じ、検討しており、展示の構成等が見えづらい点のご指摘等を修正する形で、年度末 3 月の休館日に展示の修正を行いたいと考えている旨を説明した。

これを受けて、委員より、展示の階層性や解説パネルの設置や修正などについては、年度が替わったところから動き始めるべきであり、以前より指摘している事項である。展示替えをした部分についても、説明がない資料もあるため、展示の基本をもう一度確認するべきであるという意見が出された。博物館構想が進んでおり、新しい博物館の開館に向けての準備というのはすでに始まっているという認識を持つべきであるという指摘がなされた。

また、別の委員より、新しい小田原の博物館ができるまでは、小田原の歴史を知るのはこの館であると思うが、現在の展示室では分かりづらい所がある。新しい学芸員もここ数年で増えており、予算が必要なことであるかもしれないが、できる所から常設展示に力を入れ、全体の流れが分かるようにして欲しいとの意見が出された。

さらに、別の委員より、三島市郷土資料館に伺った際、コンパクトであるが、充実した展

示がなされており、忙しいとは思いますが、お金をかけずにできることもあると思うので、他館の展示も参考に常設展示を見直してはいかがかとの意見が出された。

## ② 平成 28 年度資料調査・収集・管理等業務実施概要について

委員より、施設管理・整備活用事業について、単年度事業であるのか、また、決まった年度での申請であるのかという質問があった。

このことについて、事務局より、歴史的風致維持向上計画の中で市が挙げた計画に基づき、松永記念館整備活用計画を実施しており、そこでは前期後期の各 5 ヶ年に分けての合計 10 ヶ年の計画であることを説明した。また、前期 5 ヶ年で施設整備を進め、後期 5 ヶ年で松永耳庵がかつて建設した田舎家である無住庵の移築などを計画しており、年度ごとに完結する形での予算措置である旨を報告した。

また、別の委員から、近藤弘明作品の寄贈について、日本画は保存が大変であり、横田七郎作品の寄贈も控えていることから、収蔵スペースの確保については現在どのような状況かについての確認があった。博物館構想も進めており、石井佐一作品など小田原で重要な作家の作品について、散逸する前に何とか保存ができないかという意見が出された。

このことについて、事務局から、新しい博物館の建設は当面先になる見込みであり、収蔵スペースの確保は喫緊の課題となっている旨を説明した。ひとまずの仮ではあるが、文化財課と連携し、衛生会館であった施設を来年度以降、郷土文化館でも資料の収蔵に使わせていただくことを検討しており、空調設備等の設備が無い施設であることから、収蔵資料の中でどの資料を収蔵すべきか検討を進めている所である旨を報告した。また、石井佐一作品については、現在ご遺族との間で寄贈の話があり、手続きを進めている所であることを報告した。

## (3) その他

### ① 小田原市博物館基本構想答申（概要）について

このことについて、まず会議資料に従って事務局から概要を報告した。

委員より、小田原に博物館をとというのは長年の望みであり、以前の構想では実現に至らなかったため、今回は 1 日でも早く建つように進めて欲しい。具体的なスケジュールが示されると良いという意見があった。

次に、別の委員より、茅ヶ崎市は小田原市の計画とほぼ同じ頃に基本構想を始め、基本計画と続けて進めたという違いはあるが、かなり検討が進んでおり、3 年後には建つような予定となっている。小田原市の構想では 10 年はかかる見込みであり、実際には予算の問題があるので、難しいことは分かるが、建設までに長期間となることで構想が陳腐化する恐れがあり、今回の構想が無駄にならないよう早急に進めて欲しいと思う、また、若い学芸員が大事な時期に博物館で働けないようなことがないようにして欲しいという意見が出された。

また、別の委員から、基本構想答申（概要）に、使命と理念を最初に文章できちんと入れた方が良いのではないかという意見が出された。

続いて、別の委員から、学校教育と連携した博物館という所で、子どもたちが学べるような博物館が早くできることが望まれるという意見が出された。

さらに、別の委員から、子どもたちはとても頭が柔らかいので、博物館ができて案内をすれば、それを受け止めることができるので、博物館ができることが望まれるという意見が出された。

最後に、別の委員から、城下町であると天守閣だけに重きを置いた市町村が多くみられ、城下町全体を捉えた活動ができていない様に思われる。観光客についても近年、外国の方も含め体験型が増えており、周遊できるような拠点施設としての博物館ができれば良いのではないかと。最近箱根ジオパークの活動も小田原は低迷してきているように思う。小田原はハブであるし、拠点施設として小田原の自然についても取組んでもらいたい。県立生命の星・地球博物館があるから取組まないということはないと思うという意見が出された。

討議終了後、開催中の特別展「小田原が生んだ映画の世界」、小田原城天守閣、リニューアルオープンした常盤木門 SUMURAI 館を見学し、散会した。